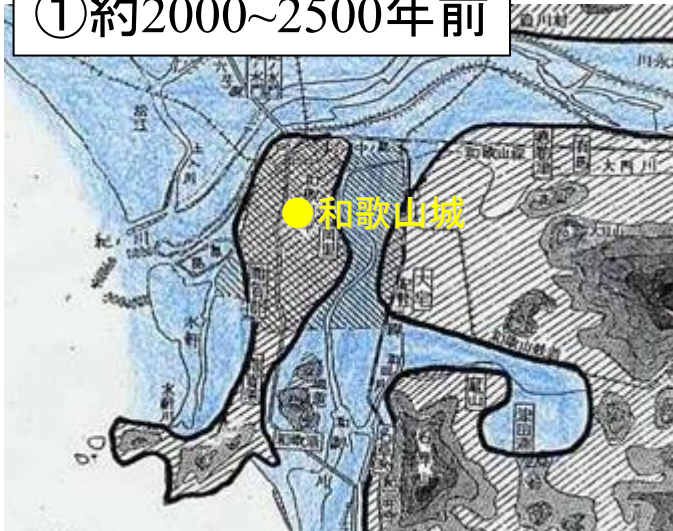


工事実施基本計画について

1. 紀の川における治水計画の経緯
2. 工事実施基本計画と河川整備基本方針・河川整備計画の関係
3. 紀の川水系工事実施基本計画
4. 工事実施基本計画の説明

紀の川の下流部の変遷

①約2000~2500年前



③約400~500年前(江戸時代)



②約1000~1500年前
(奈良~平安時代)

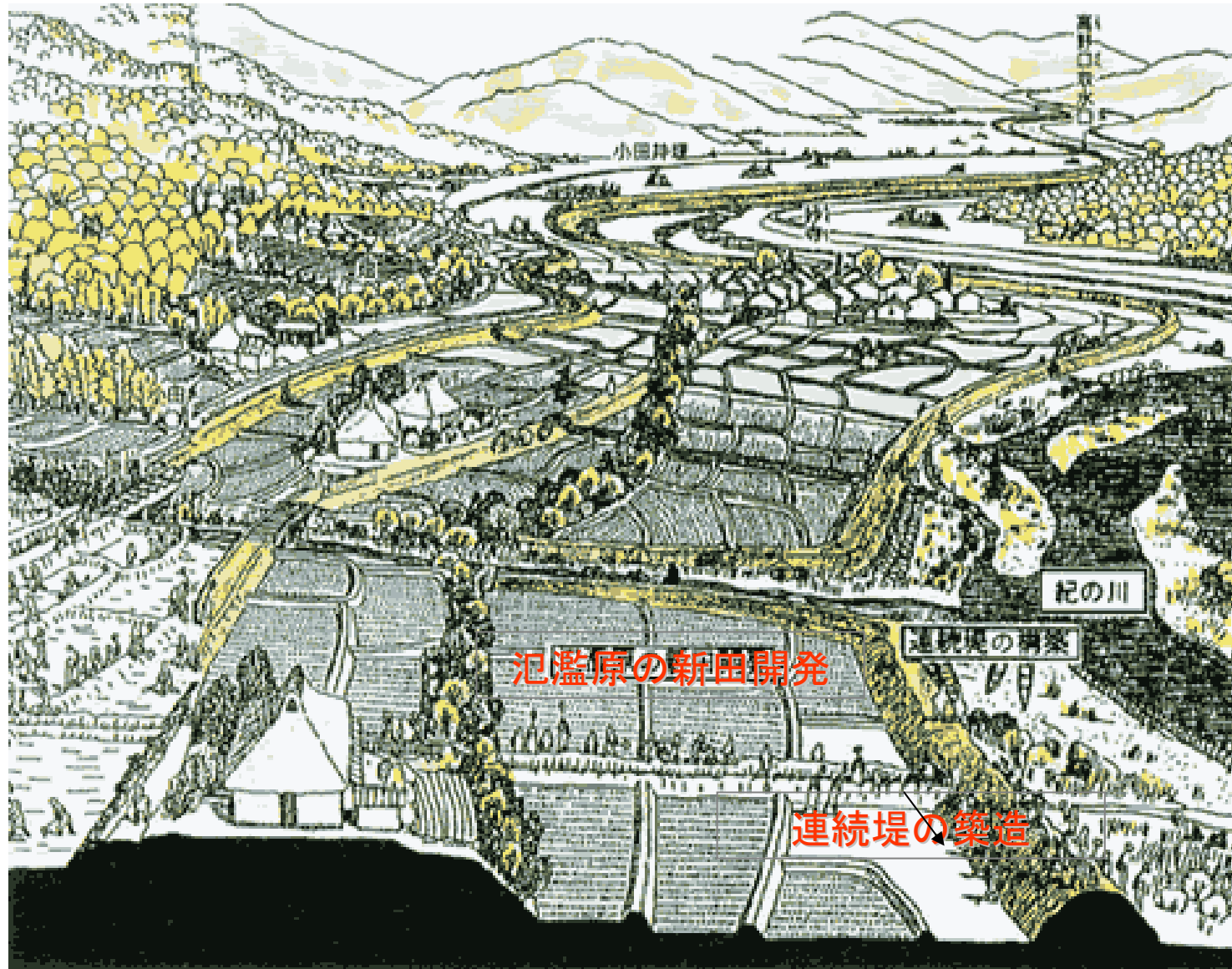


④現在



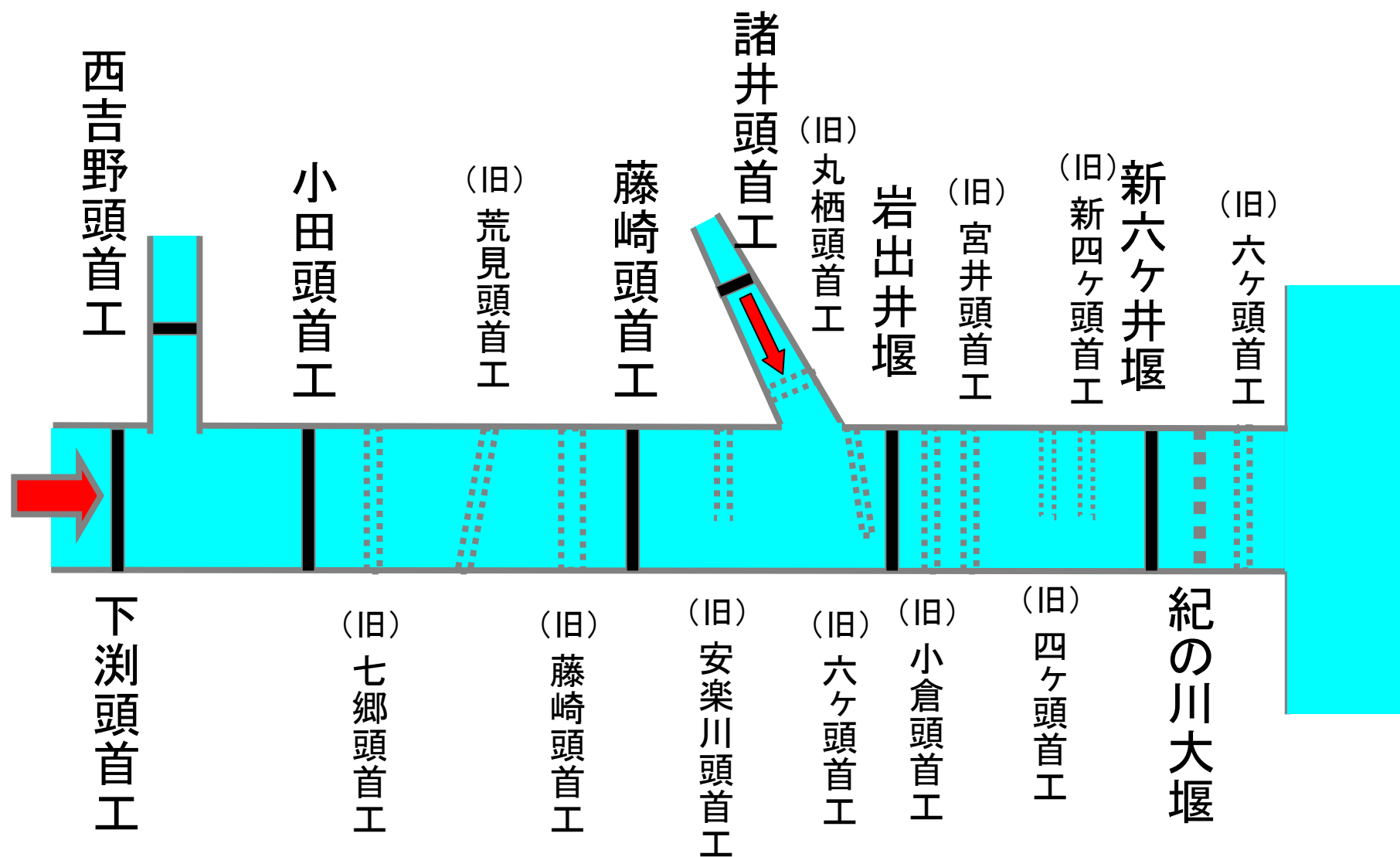
約2,000~2,500年前は、現在の和歌山市の大半は一面の海でした。その後、土砂の堆積及び海面の低下などにより、400~500年前には、紀の川の流は、南方に向きましたが、1,620年の大洪水により河口が現在の位置になったとされています。

徳川時代の治水事業



出典:「図説日本の歴史30 和歌山県の歴史」より

紀の川における旧頭首工と現在の頭首工の位置



1. 紀の川における治水計画の経緯

計画名 (策定年)	計画対象 主要洪水	(基本高水のピーク流量)計 画高水流量 (m ³ /s)	主な工事内容
紀の川改修計画 (大正12年)	大正6年の洪水	本川下流 : 5,600	河口 ~ 岩出間の築堤・掘削浚渫
紀の川改修工事 区間延長計画 (昭和25 ~ 34年)		本川上流 : 4,000 貴志川 : 2,900	岩出 ~ 橋本間および貴志川の築堤、掘削。
紀の川 修正総体計画 (昭和35年)	昭和28年及び 34年の 洪水	貴志川 : 2,900 本川上流 : 4,500 (7,100) 本川下流 : 6,100 (8,400)	大滝ダム 岩出 ~ 橋本間の堤防の拡築、掘削の継続 河口 ~ 岩出間の護岸、堤防の嵩上げ 貴志川の堤防の嵩上げ、引堤 五條地区の改修
紀の川水系工事 実施基本計画 (昭和40年4月)	同上	同上	新河川法に基づき紀の川水系工事の実施基本計画として上記をとりまとめた。
紀の川水系工事实 施基本計画(改 定) (昭和49年3月)	昭和40年・47 年の洪水	本川下流 : (16,000)12,000 橋本 : (9,400) 6,500 貴志川 : (4,700) 3,100	大滝ダム等上流ダム群 河口 ~ 五條間の堤防の拡築、掘削、 護岸、井堰、橋の改築、貴志川の護岸等
紀の川水系工事实 施基本計画(部分 改定) (平成6年6月)	同上	同上	同上 (上記の他に上流ダム群の1つに紀伊丹生川ダム、また、紀の川大堰が明記された。)

徳川時代の治水事業

紀の川の治水事業が本格的に着手～徳川時代以降

徳川時代の治水工事

初代藩主 頼宣時代の築堤



・柳堤（現和歌山市）

嘉家作付近から地蔵の辻付近まで洪水防御、城郭防衛を兼ね新堤を築造。堤防両側に柳が植えてあったことから命名。



・現在の柳堤

柳に代わり、桜が植えられている。



・千間堤（現かつらぎ町）

天端幅3m、長さ350mにわたって築堤

伊勢湾台風による被害

昭和34年9月に襲来した台風では、特に上流の大台ヶ原などの山岳地帯に降雨が集中し、上流部を中心に大きな被害が発生しました。



↑昭和34年9月 伊勢湾台風
死傷者71人、全半壊等347戸、
床上浸水3180戸、床下浸水1917戸

流量配分図

紀の川 計画高水流量図 (単位 = m³/s)

